# 令和元年度　第１回　鶴岡市子ども読書活動推進委員会会議録

○日　時　令和元年７月２６日(金)　午前１０時～

○会　場　鶴岡市立図書館　講座室

○次　第　　委嘱状交付

１．開会　　教育部長

２．教育長あいさつ　　教育長

３．報告　　事務局

（１）第１次推進計画について

①　計画の数値目標について　　資料１

②　平成30年度子ども読書アンケート分析について

③　成果と課題について

④　具体的な取り組み［実績・成果・課題］　　資料２

４．協議　　図書館長

（１）推進計画作成の指針について　　資料３

（２）第２次鶴岡市子ども読書活動推進計画について　　追加資料４

①　計画の構成について

②　趣旨について

（３）計画策定スケジュールについて

５．その他

６．閉会　　教育部長

○出席委員

樋渡美智子委員、三浦洋介委員、中村ちか子委員、菅原美穂委員、三浦宗平委員

○欠席委員　　井上裕子委員、五十嵐良二委員、遠田達浩委員、本間俊美委員

○市側出席職員

教育長：布川敦　　教育部長：石塚健　　学校教育課長：尾形圭一郎

社会教育課長：佐藤嘉男　　健康課長(代理)母子健康主査：若生幸

図書館長：松浦幸子　健康課保健師　白井香帆　子育て推進課主事：白幡佳純

かたばみ保育園保育専門員：佐藤裕美　学校教育専門員：若月美智子

社会教育主査：五十嵐依久子　図書館主査：舩岡里佳、　図書館主事：吉住静香

○公開・非公開の別　　公開

○傍聴者の人数　　１人

３．報告　（１）第１次推進計画について
①　計画の数値目標について
②　平成30年度子ども読書アンケート分析について
③　成果と課題について
④　具体的な取り組み［実績・成果・課題］
～事務局説明～

質 疑　　なし

４．協議　（１）推進計画作成の指針について
・作成指針について
・計画対象について
～図書館長説明～

質疑・協議

（図書館長）
計画の指針を検討していただくこの機会に、次のことについてご意見をいただきたい。
この計画は、国の法律に則った計画となっているが、生涯にわたって読書を親しむためにも、子ども時代に十分に読書に親しむことが必要不可欠であり、計画を推進していくためには、大人を含めた市民全体が推進について理解し、取り組んで行くことが重要であるという考えのもと、これまでの計画でも、次期計画でも進めていくものである。
この計画を子どもだけでなく、市民全体の読書活動の推進計画にしてはどうかという意見をいただいた。実際に全市民対象の読書活動推進計画を策定している自治体もあることを聞いている。
現在の計画は、０歳から１８歳までを対象とした計画となっているが、次期計画の指針を決めるこの機会に、対象についてご意見をいただきたい。

（委　員）
対象年齢を拡げることについて、良いと思う。ただ、市民の方も、関わる側の役割を明確にしていくことがとても大事で、市民側が読書で得たものを、その後にどう活用していくか。サポート側の役目として何ができるのか。

（委　員）
対象に年齢制限を設けないことに関して、大賛成である。
親が図書館に行かないのに子どもに本をという親に啓発をして、親子で図書館に行こうと。鶴岡市全体でいい案だと思う。

（委　員）
計画の対象を市民全体で取り組まないと子どもの読書活動は推進できない、その通りだと思う。
ただ、この場合は国の法律があって、計画がある。市民全体を対象に計画を立てるにあたり、どういう枠組みになっていくのか。
子どもの読書活動推進をしっかりとしていくことによって、その先、親や地域（大人）の推進にもなる。子どもの読書を推進させるために、周辺部（大人）を巻き込んでいければ。市民全体にしたほうがいいのはわかるが、他地区の様子を伺いたい。
子どもの読書を推進するのは、もちろん子どもだけでは、できないということ、親、家庭が大事だと思う。

子どもの動線上に本があるのか、手の届くところに本があるのか、親が読んでいる姿を見せているのか、というところが課題となる。
推進計画に「大人」が必要であると思うが、この計画を立てるにあたり、家庭で何をするのか、保育園・幼稚園では何をするのか、小学校・中学校・高校では何をするのか、これを具体的に示すことによってわかりやすくなるのではないか。
また、大人も対象とした場合は、何に基づいて計画が策定されるのか教えてほしい。

（図書館長）
推進対象は０歳から１８歳となっているが、現在の推進計画についても、この計画を実際に取り組んでいくというのは、大人が関わらなければならない、大人がやっていかなければならないことが、たくさん盛り込まれている計画となっている。
大人を巻き込まなければ計画は進まない、現計画でも、力を入れて推進していくのは子ども世代の読書活動だが、それをやっていくのは大人であるという計画になっている。
対象を拡げるとういう意見をいただいたが、対象を大人まで拡げるといった場合は、大人の読書活動を推進していくために、何をすべきかというところまで、考えていくものとなる。
現在の「子ども読書活動推進計画」というのは、策定を努力義務とした国の法律に則った計画である。大人も対象となる計画に変更していく場合、今の枠組みで策定することは難しく、また、策定の体制においても不足が生じるのではないかと思う。

他地区の策定例を紹介すると、横浜市が「横浜市民読書活動推進計画」というのを作っている。中身を見ると、子どもが核になっている計画ではあるが、大人のための推進活動について、各地域での読書活動目標をもって推進している計画であった。

（委　員）
みんなで盛り上げていく、良いことだと思う。
この子ども読書活動推進計画では、焦点化、重点化より一層具体化するような活動としてはどうか。そこが充実していくと、拡がっていくのではないかと。
裾野を広げて薄くなるよりは、子どもを真ん中にして、より一層具体化、焦点化しながら進めていったほうがいいのでは。結果的には成果が見えるのではないかと。委員会の本質的な役割は、何かを考えていきたい。

（委　員）
焦点化、具体化していった時に何ができるのか。主体性と多様性とを認めた鶴岡独自の取り組みはないかと。
（発想の一つとして）たとえば、地域の運動会などは、地域の子どもも、大人も一体となって盛り上がる。インテリジェンスな運動会、弁論大会のような、１冊の本を読んでチームで発表するような場、主体的に入れたものを出す機会を作れるのではないかと。
学校単位で終わらせず、地域の人も関わってくるような、今までの形だけではなくエンタメ感が欲しい、そんな面白い取り組みも良いのでは。
読書感想文は、学校の先生しか読まない。それを多くの人間で読む。同じものを読んでみても感じ方が違う。そんな考え方もあるのかという気づきとなる。

（委　員）
　別の観点から、平成２９年３月策定の第３次山形県子ども読書活動推進計画の冒頭にある、～本県では、平成２７年５月に策定された「第６次山形県教育振興計画」において、読書は豊かな感性と思考力・想像力を育て思いやりの心や人間性を養うとともに、確かな学力の基盤となることから、今後より一層「読育」を推進するとしています。～とある。
　読書がなぜ必要か、どう取り組むのか、それをより具体的にわかりやすくすることが必要と感じている。
　鶴岡市の大きい教育の柱、大きい中で 「読書」について 重きを置き、それが子ども達の心、学力、色んな面で大事な役割を果たす。
　そのために、乳児、幼児、保育園・幼稚園、小学校・中学校・高校にわたって読書に力を入れていくのだと、そんな鶴岡市の読書、読育に対する大きな思い、理念を示し、その中で読書の役割を一層大事に考えながら、鶴岡市の読書活動推進を示していけばよいのではないか。

（会　長）
　市側から他に何かないか。

（社会教育課長）
　地域の活動ついて、読書活動推進というかたちでは、事業が増えているとは言えないが、子育て支援という形での学びの場としては、増えている傾向にあると感じている。
　他には、ブックスタート事業が、社会教育課での大きな事業のひとつであるが、読書活動推進の検証となると難しいところではある。親子のふれあいの機会の場、読書の必要性、読み聞かせの必要性、に関しては機運が高まっており、今後も推進していかなければならないひとつである。
　また、ブックスタート事業も全市対象事業となって７年目になるが、現在アンケート調査を実施して、対象保護者の生の声を集約している。

（保育園）
　保育園としては、「読書、読み聞かせ」というのは、愛着関係を作る大切なツールだと考えている。愛着関係がしっかりできて、自己肯定感が高まり、自立する心が育つ。
　日々、子ども達と関わっているが、心の育ち、土台をしっかり形成していくことが大切であり、ひとつのツールとして「読書、読み聞かせ」を行っている。育ちにつながるということを保護者にも認識して欲しいと考えている。
　今、保育指針も変わってきており、認知能力も大切だが、非認知能力も大切であると言われている。その両方をバランスよく育てていくことが、大切だと思っている。
　その非認知能力を育てるひとつとして、「読み聞かせ」を大切にしている。その心の育ちにつながるということを強く共有して行きたい。

（会　長）
　皆さんから意見をいただき、子どもを中心とした読書活動あるいは、大人を中心とした読書活動だけではなくて融合したもの、 そういう視点が出てきたように思うが。

（図書館長）
　委員会で賛同いただけるならば、次期計画については、子どもの読書活動推進を中心にしてはいくが、大人になっても読書を継続してほしいという項目を入れながら策定したい。
　年代に合わせた例えば、子どもは０歳から１８歳とするとして、その前のこれから母親、

父親になる人たちからはじまり、高校生から、大人になってもという形にしたプランを持ってこの会議に望んでいる。
　対象年齢といったときに子どもだけではなく、全市民対象という形になる場合と、子ども読書活動推進の計画ではあるが、計画を実施していく大人を含んでいる形で、現在の推進委員会のまま進めていいのか、その辺りの意見を伺いたい。

（会　長）
　全く平行線の2本立てでは無く、ひとつに絡めあいながらの読書活動推進とするのは、良いわけだが、具体的にどうするか。

（委　員）
　次の（２）第２次鶴岡市子ども読書活動推進計画について他、具体的なところを提案していただいて参考にしてはいかがか。

（図書館長）
　ではここで、資料を追加させていただき、説明いたします。
　～追加　資料４　配布～
　（２）第２次鶴岡市子ども読書活動推進計画について
　　①　計画の構成について
　　②　趣旨について
　～図書館長説明～

（会　長）
　計画の構成、趣旨について、このようなかたちで進めてよいか。

（委　員）
　計画の対象ということは、子どもの計画ということでよいのではないか。
　国、県とあり、鶴岡市の大人も含めた読書活動推進にしたいということがあるときに、この計画は、「まず子どもに特化して考えてみましょう」ということだと思う。実はそこから始めないと読書は拡がないと思う。
　子どもを健やかに育てたいという気持ちは、皆同じで先ほどの保育園でも愛着が大切だと。
　「子ども読書活動推進」と、なぜ国の法律でもうたっているのかというと、子どもの読書活動が大切だということなのでは。
　市で読育したいと様々あったときに、そのなかに地域があり、そこにはコミセンがあり、大人がいろんなところで読書していること、例えばカフェなどにて本を読んでいること、良いことだと思う。
　次に家庭、保育園・幼稚園、学校と、そして大人になってという流れになっている。それぞれのところで何をするのか、どこでやるか、場と、年齢、年代にあった、誰がするのかということを明確にすることが必要なのでは。
　文部科学省の国語力を育てるというような参考文献で、大切なのは人なんだとあった。学校の図書館にも人がいないといけない。「人」とは、先生なのか、親なのか、祖父母なのか、たとえば、高校生が読み聞かせに行って関わってもいい。どこで誰が、何をするのか。
　あと、この計画に可能であれば、どんな本を読めばいいのか具体例がもっとあっていいのではないか。

（委　員）
　子どもを軸にして、大変いいと思う。生まれる前からそして年代別にあって、生涯学習へとつながっていく。
　もうひとつ、内容について検討できれば、計画はつくっても、あと棚に閉まっておくものでは無く、日常で活用される、様々な事例があり、参考できるようなもの、そういう具体的なものがいいのでは。
　例えば、幼稚園での取り組みでも、植物、作物を植える前にそのテーマの本を図書館で用意してもらい、借りてきて、園だけでなく家に持ち帰って読み、園で書いてあったことを発表し合い、気づきの場となり拡がっていく、様々な実践例があると思う。
　何か参考になるようなことを具体的に載せていく、小学校、中学校、高校ではこんなことをしているというような計画にしていく。
　そして、本を手にする手段に対して図書館がサポートし、つないでいくと拡がっていくのではないか。
　この推進委員の良いところは、保育園・幼稚園、小、中学校、高校とそれぞれの代表がおり、鶴岡市でこんな計画立てている、何かいい実践例はないかと、意見を吸い上げることができる。皆で一緒になって鶴岡の読書活動推進を頑張っていこうと、それぞれが目指し、具体化して推進していくことができる、活用できる計画になればと思う。

（会　長）
　具体的なことも出していただいたが、次の開催についてとあるが、この（推進委員の）メンバーで開催ということでいいのか。

（図書館長）
　事務局で今回のご意見を参考に整理させていただき、９月の下旬頃に第２回推進委員会を開かせていただきたい。
　そのときに、どこまでのことが提案できるのか、事務局として検討し進めさせていただきたい。